



読むぞう通信

青小読書週間がありました

10月に、1週間の青小読書週間がありました。特に読書に親しみ、たくさん本を読んでほしいと願う1週間が読書週間です。そこで、本を読むぞう委員会の子どもたちにも協力してもらって、本に親しむ環境を整えました。主な活動としては、スタンプラリーです。低、中、高ごとに、読んでほしい本を書いたカードを作成し、本を読んだらスタンプを押すというもの。廊下のいたるところに本が置かれ、歩くだけで何だか楽しい気持ちになりました。スタンプを集めようと、本を読んだり探したりする姿も見られ、いい取り組みだなあと委員会の子どもたちに大感謝！の1週間となりました。

他にも、朝読書をしたり学級によっては読み語りをしてもらったり、充実した1週間となりました。読書週間は終わりましたが、これからもそれぞれのペースで読書に親しんでいてほしいと思います。



《図書ボウのちょっと一服コーナー》

ちちんぷいぷい 本の魔法にかかってみませんか？

本を読むぞう委員会さんの企画したスタンプラリーの本の一冊に、なかやみわ・作『どんぐりむらのほんやさん』(学研)がありました。本屋さんで働くこなろうくんが、ケガで入院したつくちゃんのために、本を選んで持って行くのですが、次の日、つくちゃんがこんなことを言います。

「あの本、とても楽しかった！本を読むたび、病院がお花畑に変わって、わたし、蝶になるのよ！まるで魔法にかかったみたい！！」

つくちゃんと同じ体験をしたことがある人もいると思います。本を開くことは、「どこでもドア」の扉を開けることと似ているのかもしれませんが。読書は冒険です。扉を開けると、そこは宇宙だったり、フランスだったり、時代も江戸時代だったり、未来だったり……。若返ったり、大人になったり。魔法使いやこびとにだって会えるし、海賊と宝探しをしたり、おばけと話をすることだってできるかもしれません。周りの人から見ると、本を読んでいるという静かな動きにしか見えなくても、読んでいる人はまさに大冒険のまっただなか。ワクワク・ハラハラ・ドキドキ、世界が激しく動いています。だからこそ、読み終わった後の「楽しかった」「悲しかった」「嬉しかった」という気持ちは大切であり、それが想像力や共感力を育てていくことにもつながるのではないのでしょうか。

読むたびに感じ方が変わるのもまた、本の魔法です。今まで何も感じなかった一行が、突然、胸に沁みる一行に変わることもあるのです。本って、不思議ですね。

さあ、次を開ける扉はどれにしましょう？ 迷います。

保護者のみなさまへ

今月の「おうちで読むぞうタイム」は、週末14日(金)15日(土)16日(日)でした。

それぞれのスタイルで読書を楽しまれたことでしょう。読むぞうタイムに関わらず、親子でこたつに入って読書に親しむ時間を作るのもいいかもしれませんね。